

物質的にはまったく恵まれなかったが、
私たちの精神の領域は豊かで活気に満ちていた。

——熊井啓「嗚呼青春——旧制松本高校」

松本の街と映画館が学校だった

旧制松高／信大文学部時代の熊井啓



演劇部の仲間たちと(中央が熊井啓) | 熊井啓記念館蔵

TREASURES FROM KUMAI KEI ARCHIVES

|会期|

2020.1.16|thu| - 2.16|sun| *月曜休館

9:00-17:00 *入館は16:30まで 入場無料 *2階・3階常設展示は通常観覧料

|会場|

旧制高等学校記念館 1階ギャラリー | 松本市県3丁目1-1

企画 |

飯岡詩朗 (信州大学人文学部准教授)

主催 |

信州大学人文学部

信州大学部局推進プロジェクト

「人文学的な学び合いの場を地域に創る」

後援 | 松本市、安曇野市教育委員会

松本の街と映画館が学校だった | 旧制松高 / 信大文理学部時代の熊井啓

人口八萬弱ですが私達の町は本屋を約三十軒、カレッジ・ハイスクールを十五近くも持ち、立派な音楽学校もあります。それと共に街の人々のオアシス[たる]映画館が六つあります。

— 中野豊「アワ・タウン 信州松本便り」『映画之友』1948年5月号

新制大学として信州大学が設立される前年の1948年(昭和23年)、後に世界的な映画監督となる熊井啓は、旧制松本高等学校に入学しました。熊井を含む最後の松高生となった者たちの多くはそのまま翌年から信州大学文理学部の学生として、松本市の街なかで青春を謳歌しました。本展は、おもに熊井啓記念館所蔵の資料をもとに、松高 / 信大文理学部があがたの森にあった時代に学生生活を送った熊井が主体的に取り組んだ映画サークル活動を中心にふり返り、松高生 / 信大生たちの街や市民とのかかわりから、現代における「学び合いの場」としての街なかの可能性を考えます。

企画 | 飯岡詩朗(信州大学人文学部准教授)

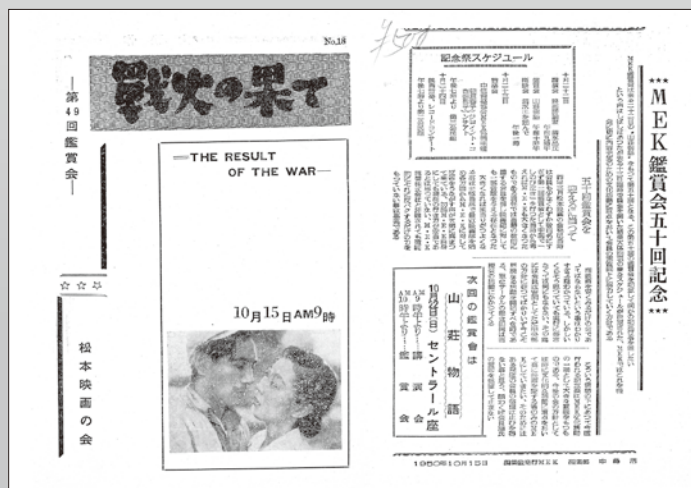
主催 | 信州大学人文学部

信州大学部局推進プロジェクト「人文学的な学び合いの場を地域に創る」

後援 | 松本市、安曇野市教育委員会



旧制松高映画研究会所属の学生が収集していた映画館発行のチラシ | 旧制高等学校記念館蔵



「松本映画の会」チラシ | 個人蔵

| 関連イベント |

第183回サロンあがたの森

「1930年生まれの映画監督たち

— 旧制松高 / 信大文理学部時代の熊井啓と世界のシネフィリア」

話題提供 | 飯岡詩朗(信州大学人文学部准教授・映画研究)

日時 | 2月15日(土) 13:30-15:30

会場 | あがたの森文化会館本館1-5(県3-1-1)

参加費 | 200円(お茶・資料代として)

主催 | サロンあがたの森実行委員会

共催 | 旧制高等学校記念館・記念館友の会

トークイベントを開催予定です。

詳細は信州大学人文学部公式サイト内「イベント」ページ

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/event/>

にてお知らせします

| お問い合わせ |

信州大学人文学部 飯岡研究室 (准教授 飯岡詩朗)

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

Tel 0263-37-3461(飯岡研究室)

Fax 0263-37-2235(人文学部総務係)

Mail kumaikarchives@shinshu-u.ac.jp

*電話で対応できる時間が限られるため、

電話でお問い合わせの際も、できるだけ事前にメールでご連絡ください。

| 会場 |

旧制高等学校記念館 1階ギャラリー 松本市県3丁目1-1

バス | JR松本駅お城口からタウンズニーカー東コース「旧松本高校」下車すぐ

北市内線東まわり「秀峰学校前」下車徒歩4分

車 | 松本ICから20分

